

善入寺島

—「阿波」の由来を物語る島—

(徳島県阿波市・吉野川市)

株式会社片平新日本技研／道路部

田中 知実(会誌編集専門委員)

TANAKA Tomomi

吉野川の河口から30kmほど上流に向かっていくと、南側は吉野川、北側は善入寺川に挟まれた、約500haの川中島「善入寺島」が姿を現す。この広大な島には整備された畑が広がり、四季折々の花々が彩りを添えている。川中島とは思えないほどの豊かな風景に、訪れる人は驚かされるだろう。現在は無人島であるこの島には、かつて約500世帯、約3,000人の人々が暮らしていたという。

善入寺島は、古くは「栗島」と呼ばれていた。それは、古代の忌部氏がこの地に粟を植えたところ、豊かに実ったことで、このことが、後に栗国、すなわち阿波国の名前の由来になったとも伝えられている。

島の土壌は砂礫土で水稻栽培には適さなかったが、粟の栽培には最適だった。島民たちは粟を主作物と

し、麦、^{ひえ}稗、さつまいもなども自家用として栽培していた。江戸時代には藩の藍作奨励政策により、藍の栽培も盛んに行われるようになった。

皮肉なことに、藍作に好結果をもたらしたのは毎年のように起こる洪水だった。洪水が運ぶ肥沃な土砂が藍の生育を助けたのである。しかし同時に、洪水は島民の生活に深刻な被害をもたらし続けたのである。

明治時代に入ると、徳島県は吉野川の改修工事に着手した。しかし栗島の洪水対策は一向に進まず、1890(明治23)年の大洪水では全島が水没、1902(明治35)年の大洪水でも甚大な被害を受けた。島民の改修工事への要望は切実さを増していった。

1907(明治40)年、帝国議会は10か年計画で吉野川改修工事の実施を決議した。この時、島にあった善入寺という寺院の名前を取って、栗島は「善入寺島」と改名された。

しかし、改修工事を待ち望む島民に内務省が提示したのは、島全体の買収と遊水地化だった。事実上の立ち退き計画である。当時の善入寺島には480町歩(約480ha)の耕地林野と305軒の家屋があったという。

島民たちは少しでも島が残るよう、計画の変更を強く要望した。豊かな農地を手放したくなかったのは当然だろう。交渉の結果、旧所有者には永久に無料で土地を使用させること、遊水地としての用途廃止後は旧所有者に返還することを条件に、島民は立ち退きに同意した。土地の買収は1913(大正2)年に完了したが、立ち退きは進まなかった。内務省は1915(大正4)年に強制退去命令を発し、住民は否応なしに島を後にすることとなった。

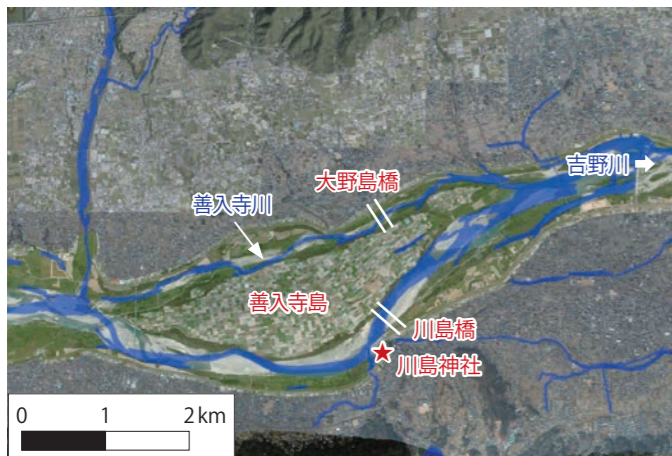


図1 善入寺島周辺図



写真1 島の南側を流れる吉野川と川島橋(潜水橋)



写真2 ひっそりと立てられた宮島八幡宮の石碑



写真3 立ち入ることのできない宮島八幡宮跡地



写真4 欄干のない潜水橋(大野島橋)

善入寺島には宮島八幡宮という神社があった。この社は大きな石の上に建てられており、洪水の時でも沈むことがなく、まるで川に浮かぶ神殿のように見えたことから「浮島八幡宮」とも呼ばれていた。

創建は651(白雉2)年と伝えられる歴史ある神社だった。中世から江戸時代にかけて、川島の領主や地頭、川島城主からの崇敬が厚く、武運長久の祈願や刀剣の奉納なども行われていた。

吉野川の改修工事に伴い、宮島八幡宮は他の神社と合祀される形で1916(大正5)年に島外に社地移転して川島神社として新たに創建された。

長い歴史と地域の人々の厚い信仰を集めた神社があった場所は、今では池となり、その記憶をとどめるため、石碑がひっそりと立てられている。石杭、鉄線で囲まれ、人が足を踏み入れることは到底できない状態になっている。

現在、この善入寺島に入るには潜水橋を渡る必要がある。かつては渡船が唯一の交通手段だったが、増水や洪水のたびに足止めを食らうことがしばしばあった。

無人島となった後も、善入寺島は優良な農地として活用されていたため、交通の確保は不可欠だった。吉野川流域では地域からの架橋要望が強く、予算制約がある中で、従来の木橋や渡船に代わる新たな解決策として、当時全国的に整備された、潜水橋が注目された。コンクリート製で洪水時にも流出せず、吉野川の洪水時の流下能力を阻害しない潜水橋が、1954(昭和29)年から1965(昭和40)年にかけて整備された。当時は12橋が架けられ、その後架け替えられたものも



写真5 青々と広がる豊かな耕作地

あるが、善入寺島を結ぶ潜水橋は現在も6橋が残っている。

日本三大河川の一つである吉野川は、徳島県の人々の暮らしを照らし出すように流れている。洪水のたびに流路を変え、下流域には巨大な川中島を作り出し、上流域ではその急流による侵食で険しい山間部を形成してきた。

徳島県はその面積の8割が山地でありながら、「阿波国」と名付けられた。広大で豊かな善入寺島を歩いてみれば、その理由がきっと、分かるはずだ。

<参考資料>
1)『吉野川歴史探訪』 <https://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/kouhoushi/matome/rekishitanbou/rekishitanbou.html>
2)『阿波こぼれ話』 猪井達雄 1975年 徳島市中央公民館

<写真提供>
写真1 松田明浩
写真2 米山賢
写真3、5 田中知実
写真4 佐治雅之